

知っておこう！ 細菌性肺炎について

Q：細菌性肺炎とはどんな病気ですか、風邪とはどう違いますか

A：細菌性肺炎では、細菌により、発熱・咳・膿性痰・息切れ・食欲不振など全身に影響がでるのに対して、風邪は、ウイルスによる、喉と鼻の病気で、症状は数日でピークになり、約1週間で回復します。

Q：肺炎の原因を教えてください

A：肺炎を起こしやすい肺炎球菌、インフルエンザ菌の他、抵抗力が低下しているときにだけ、肺炎を起こすことができる菌がいます。いずれの菌も、もともと鼻やのどに、保菌という状態であることが多いのですが、他の人からうつることもあります。

Q：どのような時に受診すればいいのでしょうか

A：鼻づまりでもないのに呼吸が苦しい、38℃を超える発熱が数日間続く、食事が数日取れない、2週間以上、咳や色のついた痰が続く場合は受診してください。

Q：お年寄りの肺炎で注意すべきことは

A：あまり高い熱がでないことや、食欲や活動性の低下などだけで、具合が悪く見えないこともあります。また、歩行困難、意識障害など、肺炎らしくない症状のこともあるため、普段と様子が違ったり、だんだん悪化している場合は、受診をお勧めします。

Q：最近よく聞く誤嚥性肺炎。どんなことに注意すればよいですか

A：だ液や食べ物などを飲み込む嚥下機能の低下から、病原菌が肺に入りやすくなっておこります。食事の工夫や、とろみをつける、ゆっくり食べる、口腔ケアをしっかりと行うなどで、予防に努めることが大切です。

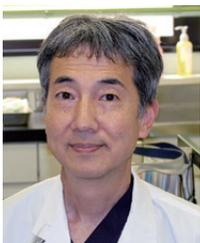


Q：どんな治療法がありますか

A：治療の基本は抗生剤と、症状を緩和する薬に安静です。水分が不足している場合は、補液を行い、重症になると酸素を吸入してもらい、さらに重篤な場合は、人工呼吸器で補助を行うこともあります。

Q：肺炎を予防するには

A：喉や口に、肺炎を起こす菌がもともといることもあるため、歯磨きやうがいで口の中を清潔にすることが大事です。禁煙も非常に有効です。喫煙では線毛による排出機能が低下して感染しやすくなります。また、肺炎の頻度が増加する65歳以上の方には、肺炎球菌に対するワクチンが推奨されています。



橋本先生から
ひとこと

呼吸器内科 部長
はしもと いくた
橋本 幾太 先生

肺炎は症状も、程度も様々です。色のついた痰が出る、38度の熱が3日以上続く、食欲がない、胸の痛みがある時は、我慢せず受診してください。早く治療を始めれば、早く治ります。

